97

『甲乙経』に見える小児科鍼灸条文

川端かおり
日本鍼灸研究会

1 『甲乙経』における小児科鍼灸条文の記載

『甲乙経』の小児科鍼灸条文は，巻十二・小児雑病第十一に集中して記載されている．小児雑病第十一は20条で構成され，第1条と第2条は『霊枢』論疾診尺篇第七十四，第3条は『素問』通評虚実論篇第二十八からの引用であるが，第4条～第20条は他医書に未見である．第1条と第2条は「嬰児」の書き出しで小児の病證や予後，第3条は驚癎の刺法が述べられている．第4条から第20条までは小児科鍼灸主治条文（以下，「小児科主治条文」）が列挙されており，第4条から第19条までは「小児」の書き出しで統一されている

第4条から第20条までの小児科主治条文全17条に見える主治病證を，主なる病證とそれに附加された従病證からなるものと解釈し，その主なる病證と考えられるものを挙げると，「癎」（12条），「欬而泄不欲食」，「食晦頭痛」，「臍風」，「腹満」，「口中腥臭．胷脅槍満」（以上各1条）の6種となる．このうち「癎」には，「驚癎」，「癎瘈」，「馬癎」，「癎痙」の4種が含まれている．

腧穴の種類は本神穴，前頂穴，顖会穴，天柱穴，臨泣穴，筋縮穴，長強穴，譩譆穴，攢竹穴，絲竹空穴，瘈脈穴，顱顖穴，列缺穴，陽明絡，労宮穴，商丘穴，大敦穴，然谷穴，懸鐘穴，僕参穴，金門穴，崑崙穴の計22穴で，顱顖穴と商丘穴のみ2回の記載が有る．手足と体幹部（頭部を含む）の腧穴の比率は1対1である．前述した「癎」の諸證に対する選穴を見ると，「驚癎」単独では，本神穴，前頂穴，顖会穴，天柱穴であるが，「驚癎」に「瘈瘲脊急強」が加わると筋縮穴が，「脊強互相引」では長強穴が，「不得息」では顱顖穴が，「如有見」では臨泣穴が，「如反視」では列缺穴と陽明絡が選穴されている．②「癎瘈」では，商丘穴，大敦穴，崑崙穴が選穴されている．③「馬癎」では僕参穴，金門穴が選穴されている．④「癎痙」では瘈脈穴と長強穴が選穴されている．

2 隋唐期までの『明堂』系医書との比較

『甲乙経』に見える小児科主治条文と隋唐期までの『明堂』系医書に見える小児科主治条文との比較結果は次の通りである．

楊上善注『黄帝内経明堂』には，列缺穴の主治条文の一節に「癎驚．而有見者并取陽明胳」として，『甲乙経』とほぼ同文の小児科主治条文が見られる．

『千金要方』巻第三十の婦人病第八には，計7条，11穴（本神穴，前頂穴，顖会穴，天柱穴，臨泣穴，顱息穴，懸鍾穴，瘈脈穴，長強穴，然谷穴，譩譆穴）の小児科主治条文が記載されているが，全て『甲乙経』と同文または類文である．

『千金翼方』巻第二十六　鍼灸上・小児驚癎第三には，計21条，24穴の小児科主治条文が見え，また，第二十七・鍼灸中・小腸病第四の治大人癲小児驚癎法にも小児科主治条文が有るが，『甲乙経』との同文や類文は見えず，選穴においても同じ穴も見られない．

『外台秘要方』第三十九には，14穴（大敦穴，懸鐘穴，本神穴，臨泣穴，顱息穴，労宮穴，然谷穴，譩譆穴，天柱穴，顖会穴，前頂穴，筋縮穴，長強穴，瘈脈穴）に小児科主治条文が見えるが，穴名と病證は全て『甲乙経』に依拠するものである．

『医心方』巻二には，7穴（前頂，百会，臨泣，顱息，本神，労宮，懸鍾）に「小児」という言葉が含まれる主治病證が見られる．このうち前頂，臨泣，労宮，懸鍾の各条文は『甲乙経』『外台秘要方』に起源を持つものである．

『素問』王冰注所載の腧穴条文には，小児への言及は見られない．